

キャリア開発・育成支援

半導体業界セミナーの実施

2022年12月19日、大学院教育支援機構と一般社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)の共催で「京大生のための半導体業界研究セミナー」をオンラインで開催し、約40名の学部生・大学院生が参加しました。京大OBであり現在ローム株式会社経営戦略本部に所属する塚田虎之氏による、現在の半導体業界の状況や自身の進路選択に関するご講演につづき、Q&Aセッションでは学生から多種多様な質問が寄せられ、活発な議論が交わされました。参加学生からは「半導体業界を統合俯瞰的に知ることができ大変有意義だった」「自分のキャリアの選択肢として半導体業界も魅力的だと思った」などの感想が寄せられました。



大学院教育支援機構では、今後も様々な分野の業界研究セミナーを企画・開催予定です。



キャリア開発・育成支援

全学向け確定申告説明会を開催

大学院教育支援機構奨励研究員およびフェローシップ受給者が受け取る「研究専念支援金」が税法上雑所得として扱われ、所得税・住民税の課税対象となることから、これらの学生がスムーズに確定申告できるよう、2023年2月2日に確定申告説明会を開催しました。長年本学の税務顧問を務められた大川公認会計士・税理士事務所の大川雅司氏に講師をお願いし、確定申告が初めての学生にも納税の基本が理解できるよう、丁寧に説明いただきました。会場の学生たちからは盛んに質問も寄せられ、雑所得と給与所得はどう違うのか、

どこまでが必要経費と認められるのか、減価償却費をどう考えればよいのか、すべての領収書を保管しておく必要があるのか、など具体的な事柄も含めて幅広くレクチャーを受けていました。

ハイブリッド形式で開催したこの説明会には、オンライン約200名、オンサイト約30名が参加しました。また、当日受け付けられず事後対応とした質問は93件にのぼり、大川氏に書面回答いただいたものを学生たちと共有しました。



京都大学

大学院教育支援機構／国際高等教育院／国際・共通教育推進部

FEB 2023

vol. 2

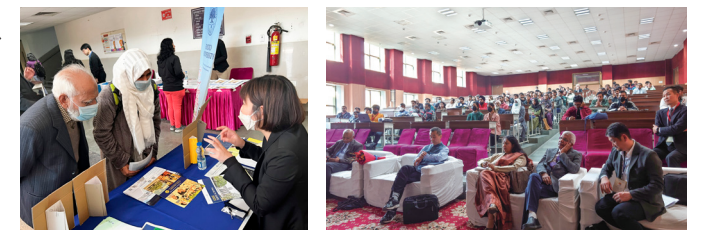
News Letter

このニュースレターでは、大学院教育支援機構、国際高等教育院、国際・共通教育推進部に関する情報をお届けしていきます。

留学生のリクルーティング

海外渡航を伴う大学院留学生リクルーティング活動を開始

大学院教育支援機構による初めての大学院留学生リクルーティング活動として、2022年12月10日～15日にインドを訪問しました。インドは、文部科学省の日本留学海外拠点として東京大学が10年以上の活動を続けており、今回参加した日本留学フェア・Namaste japanもThe University of Tokyo India Officeが主催したものです。本学ブースには30名程度の留学希望者が相談に訪れました。また、2020年に設立された本学・現地同窓会であるインド京大会会長と懇談し、日本や世界から投資先としてのインドへの注目が集まる中、日印の若手人材交流と育成が重要と認識しました。このほか、日本大使館、JICAインド事務所、Indian Institute of Technology Delhi / IIT Delhiほか複数大学等を訪問し、情報交換を行いました。



インドに続き、2023年1月28日～30日にフィリピンを訪問しました。京都大学化学研究所が2017年からアジア各地で開催を続けてきたイベント「Talent-Spot」に参加し、京都大学への留学について紹介を行うとともに、ブースを設けて留学に関する個別相談を行いました。イベントにはフィリピン大学ディリマン校、サント・トマス大学、デラサル大学をはじめとするフィリピンのトップ大学から修士・博士課程での留学を希望する17名の学生が参加しており、本学への留学を志す学生の熱意を肌で感じることができました。



Kyoto University
Division of Graduate Studies
京都大学大学院教育支援機構

<https://www.kugd.k.kyoto-u.ac.jp/>



ILAS
INSTITUTE FOR LIBERAL ARTS AND SCIENCES

<https://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/>



お問い合わせ

京都大学国際・共通教育推進部企画掛 〒606-8316 京都市左京区吉田二本松町
Mail: graduate_studies_office@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

留学生のリクルーティング

海外渡航を伴う大学院留学生リクルーティング活動を開始

2023年2月10日～13日にタイを訪問し、本学ASEAN拠点が開催した東南アジアネットワークフォーラム・Developing Asian Humanities and Technology for the Futureに参加しました。フォーラムには、タイやラオス、マレーシア等の近隣諸国で活躍する本学の同窓生やその生徒が100名程参加し、大学院教育支援機構の留学相談ブースにも本学への留学に関する多くの相談が寄せられました。また、本学の留学生受入れに関する近年の動向についてプレゼンテーションを行い、発表後には参加者と活発な意見交換が行われました。今後も



海外で実施されるイベントにオンサイトで参加し、積極的なリクルーティング活動を展開していきたいと考えております。



キャリア開発・育成支援

大学院教育支援機構奨励研究員およびフェロシップ受給者によるポスター発表会・研究交流会を開催

2022年10月21日および10月27日に、国際科学イノベーション棟において、大学院教育支援機構奨励研究員およびフェロシップ受給者によるポスター発表会・研究交流会を開催しました。

このイベントは、大学院教育支援機構が経済支援を行う博士課程学生が自身の研究成果を発表し、研究科や研究室など既存の枠組みを越えて議論し合うことで研究者能力を向上させることを目的とした試みで、同機構としては初めて対面形式で実施しました。

江上雅彦 大学院教育支援機構長の激励の挨拶を受けて、

10月21日は学生40名、10月27日は学生41名がそれぞれポスター発表を行いました。

各日も50名以上の学生や教員が発表の聴講に訪れ、学生同士、教員との間で分野を超えた交流が行われました。また、C-ENGINE（一般社団法人 産学協働イノベーション人材育成協議会）からは研究インターンシップに関する特別講演を行うとともに、同協議会参画企業8社がブース出展し、研究内容に関する意見交換や研究インターンシップ実施に関する相談を行いました。



横断教育プログラム

京都大学卓越ワークショップ2022を開催

2023年1月30日に国際科学イノベーション棟において、「京都大学卓越ワークショップ2022」を開催し、約80名が参加しました。

本ワークショップは、「壁を超える - 大学院横断教育プログラム京都大学の挑戦 -」をテーマに、本学で実施している3つの卓越大学院プログラム（「先端光・電子デバイス創成学」



「メディカルイノベーション大学院プログラム」「社会を駆動するプラットフォーム学卓越大学院プログラム」）に参加する学生や教職員が

一堂に会する初めての試みで、プログラム参加学生が取り組んでいる研究や活動について、プレゼンテーションや発表を行うとともに、プログラムや研究分野の垣根を越えたつながりを持つことを目的に実施しました。開会挨拶を行った湊長博総長は、社会を俯瞰し自分の立ち位置や他分野との連携を図り、真の意味での良い研究を行う重要性を訴えました。



国際教育支援

経済支援

ウクライナ学生たちの京大生活の様子

2022年に受け入れた15名のウクライナ学生は、本学「ウクライナ危機支援基金」の援助を受けながら勉学に励んでいます。現在留学生ラウンジ「きずな」で支援スタッフとして働いている元本学留学生のウクライナ人スタッフ ポリナさんにウクライナ学生の日々の様子を聞いたところ、多くの学生が勉学に専念するだけでなく、日本での生活を楽しみ、日本の言葉や文化を学ぶ時間も大切に、共に学ぶ日本や世界各国の学生たちと交流を深めているとのことでした。



今後も学生が安心して本学で学修を継続できるよう、経済的な支援とあわせて、生活面、メンタル面での様々なサポートを行って参ります。

国際教育支援

交換留学生の本格的な受け入れ再開

本学の交換留学生の受け入れは、2022年度秋学期から本格的に実渡航による交流が再開され、現在は29カ国から174名の学生を受け入れています。このうち国際高等教育院では103名のKUINEP (Kyoto University International



Education Program) 学生を集約的に受け入れており、全学共通科目を中心に様々な科目を意欲的に学んでいます。2023年度春学期にも約120名の交換留学生の受け入れを予定しており、ほぼコロナ禍前の水準に戻りつつあると言えます。

また、留学生ラウンジ「きずな」では、本学の学生と交換留学生との交流イベントとして、「留学のススメ「協定校ひろば」」を開催しています。6月には3校（香港大学、クイーンズランド大学、トロント大学）、11月には4校（クイーンズランド大学、コペンハーゲン・ビジネス・スクール、カリフォルニア大学サンタクルーズ校、プリティッシュコロンビア大学）からの交換留学生が、英語で大学・自国紹介プレゼンテーションを行うとともに、参加学生と交流する時間を持ちました。2回のイベントを合わせて約100名が参加しました。